

---

【講演レポート】JIPDECセミナー番外編「机のない勉強会Online 今さら聞けない5Gのホントのトコロ」

「5Gへの正しい期待の仕方-今さら聞けない5Gのホントのトコロ-」

当日いただいたご質問と回答

株式会社企 代表取締役 クロサカ タツヤ氏

Q:デルタ航空が事業のウイングを周辺に広げると、従来までのビジネスアセットは、資本回収期間やビジネスモデル等が全く異なるので、経営的にはむしろ重荷になっていく可能性があるような気がします。10年後のデルタ航空は依然として航空機を運用しているのでしょうか？航空産業のブランド名だけを残して、航空機を持たない航空産業が出現する可能性はありませんか？

A:ご指摘の通り、すでに米国のインフラビジネスは、オフバランス（資産の費用化）による「持たざる経営」が主流となりつつあります。そしてそれがサービス業へのシフトを加速させるドライバーになっているとも言えます。ただ前述の通り、5Gが「空間のDX」を加速するのだとしたら、単純に「持たざる経営」だけで本当に企業は責任を果たせるのか、またコロナ禍によってサイバーがコモディティ化するなかで、フィジカルの希少性が高まるならば、むしろ有体資産への回帰がありうるかもしれません。そうした変化の中にいるというのが現状ではないでしょうか。

Q:いわゆる「なんちゃって5G」の提供はカバレッジ拡大には有効であり、「繋がっている」というユーザー認知を高めるために有効である一方で、ご説明された「夢物語」の実現には程遠いユーザーエクスペリエンスをもたらします。こうした「なんちゃって」の提供は5Gの幻滅期を縮めると思いますが、それとも延ばしてしまうと思いませんか？

A:「なんちゃって5G」はユーザーエクスペリエンスとしては「ほとんど4G」でもあるので、最終的には5Gとしての存在理由には貢献しません。一方で「本物の5G」は、既存の4Gとは外形的な姿もエクスペリエンスも、まったく異なるはずで。そう考えると、5G幻滅期が終わるのは、「なんちゃって5G」を忘れるとき、なのかもしれません。

Q:データから予測された提案か、(悪意含む)意図をもった操縦との見分け方や、操縦ではないという保証を、通信事業者含む事業者は、どうデザインしていくことが求められるのでしょうか？

A:従来の「ナッジ」は、公益に資することや透明性を担保すること等が条件とされています。これに準拠するところからスタートするのが説得力を高めると思います。すなわち、より多くの人にとっての利益となることを、より多くの人々の権利を守れるアプローチで行う、ということです。また、それがさらに細分化され、個人に近いところにたどり着く時には、個人の関与を高め、エラーが発生した時

---

に十分な救済措置が取られることが必要になります。これは単独事業者だけではなく、制度として設計すべき領域でもあるはずです。

Q:ウーブンシティ（トヨタのスマートシティ構想）に評価コメントをいただけますか？

A:まだ全容が見えないところではありますが、何を課題として特定するのが、都市設計そのもの、また作ろうとする都市のインフラの要件に大きく影響を及ぼすと思います。日本社会は、幸か不幸か課題が山積していますので、トヨタ自動車の皆様が考える「課題」を知る重要な手がかりとして、注目しています。

Q:部屋ごとに基地局を設置するような状況を考えますとWiFiとはどのように使い分けがなされるとお考えでしょうか。

A:WiFiとの共存は、ユースケース、導入費用、技術、周波数利用等、様々な観点で5Gの大きなテーマになっており、検討や開発が進んでいるため、まだまだ決着は見えません。ただ、3GPPリリース16以降では、5Gのアンライセンスバンド（免許不要周波数帯）での利用に係る標準化が進められており、将来的には5GとWiFiは混ざり合う（そして一体化していく）のかもしれませんが。

以上

本内容は、2021年5月13日に開催されたJIPDECセミナー番外編「机のない勉強会Online 今さら聞けない5Gのホントのトコロ」において参加者の方からいただいたご質問に対する回答です。